



水草は、どうやってふえるの



たねを作るもの、体がちぎれてふえるもの、水上でのばしたくきの先に子どもの芽をつけてふえるものなどがあるよ。

あっという間にふえる水草

初夏のころ、ウキクサがふえて、池の水面が一面に緑色に見ることがあります。ウキクサは小さな丸い葉が重なったような形で、つぎつぎと新しい葉がはえてきて、やがてちぎれ、また新しい葉（葉が体全体になる）ができてふえていきます。

葉のえがふくらんだホテイアオイは、水面にういたまま、イチゴと同じようなランナーとよばれるくきを四方に出し、その先につぎつぎと子どもができてふえます。ホテイアオイは、夏には花がさき、たねもできます。たねは水底で冬をこし、春に水中で芽を出し、ふくらんだ葉のくきができると、水面にういてきます。

日光や養分をふくんだ水がたっぷりあるので、水草はあっという間にふえます。

水草のふえ方は、いろいろある

クロモやセキショウモなど水中にある水草は、め花だけが水面に出てさき、水面を流れてくるお花の花粉を受け取って、たねができます。オオフサモやコカナダモなどは、水中のくきにある節がおれて流され、節から根や芽が出てふえます。

ハスやスイレンのように水底の地下けい^{えだわ}が枝分かれし、地下けいの節ごとに、根や葉がのびてふえるものもあります。レンコンは、ハスの地下けいです。

